

名古屋市いじめ対策検討会議の 報告を受けた 教育委員会の対応について

ナゴヤ子ども応援会議の開催

- ・昨年11月10日、ナゴヤ子ども応援会議を緊急に開催

教育委員会の開催

- ・昨年11月上旬、4回の教育委員会会議を開催

いじめ対策検討会議の開催

- ・昨年11月18日、事案の調査と検討を諮問

答申「自死に至る要因と経緯の認定」

- (1) 当該生徒に対するいじめ行為
- (2) その他、当該生徒が苦痛に感じていた出来事
- (3) 当該生徒にストレスを感じさせた環境
- (4) 自死直前の心情

答申「学校における背景事情と問題点」

- (1) 学級の状況と担任の指導
- (2) 部活動の状況と顧問の指導
- (3) 学校全体の状況

答申「再発防止に向けた提言」

(1) 的確な児童生徒理解と、それを踏まえた状況把握及び指導のための体制の必要性

- ・子どもたちを多くの目できめ細かく見て指導することができる体制
- ・多様な専門性を持った職員が児童生徒に多面的に関わることのできる体制
- ・ハイパーQ U（学校生活アンケート）を始めとする各種調査の有効活用とそのための体制

※ハイパーQ U～よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート

答申「再発防止に向けた提言」

(2) いじめや自死の防止に寄与する教育・指導の推進

- ・いじめ防止教育、自殺予防教育の継続的な実施
- ・心の健康を育む実践的な教育活動の充実
- ・基礎となる人権教育・道徳教育の重要性の再確認

答申「再発防止に向けた提言」

(3) 部活動における指導・運営体制の充実

- ・ 部活動の意義の再確認
- ・ 指導者の適切な配置
- ・ 技術指導における専門性の向上と外部人材の活用

答申「再発防止に向けた提言」

(4) その他全体を通じた提言

- ・ 教師がより信頼される存在になること
- ・ 学校全体として経営的視点の再確認をすること

いじめ対策検討会議の答申

- ・今年8月31日、調査・検討の結果を答申

報告書の作成・公表

- ・今年9月2日、会議の答申を受け、報告書を公表

学校への通知文の発出

- ・今年10月5日、学校に、報告書に関する通知文を発出

教育委員会の対応の内容

- ① 報告書の内容の共有・見直し・改善（学校へ通知）
- ② ハイパーQU（学校生活アンケート）の有効活用
- ③ 道徳教育・人権教育の充実
- ④ 自殺予防教育の促進

① 報告書の内容の共有・見直し・改善（学校へ通知）

- ・ 報告書について、全ての教職員での情報共有
- ・ 校内の職員の研修等を通じた共通理解
- ・ 点検活動表による校内体制の点検と改善



② ハイパーQU（学校生活アンケート）の有効活用

ハイパーQUとは...

標準化された心理テスト

子どもたちの意欲・満足感、学級集団の状況を測定

多角的な分析により困難を抱えた児童生徒を客観的に把握

いじめや不登校の未然防止・早期発見、情報共有に有効

年2回実施により、対策の効果測定が可能

② ハイパーQU（学校生活アンケート）の有効活用

- 1回目のハイパーQUの実施状況の調査分析
→改善点等を周知
- 2回目のハイパーQUの実施状況の調査分析・検証
→改善点等の周知
次年度以降に向けた活用のあり方を学校に提示

③ 道徳教育・人権教育の充実

- 「いじめ防止教育プログラム」の内容を元にした、道徳の授業に関する資料を作成・配布
- 道徳教育のためのハンドブックの作成を検討
- ING（いじめのない学校づくり）キャンペーンを通じた人権感覚の醸成



④ 自殺予防教育の促進

- ・自殺予防講演会の実施
- ・ストレスマネジメントの授業を実施
- ・自殺予防のためのDVDを活用した授業の検討
- ・その他自殺予防教育の計画的・効果的な実施を検討



その他の取り組み

- ・「名古屋市いじめ防止基本方針」の見直し
→見直しを踏まえ、各学校の「いじめ防止基本方針」の見直し・改善を指示
- ・子どもたち同士のつながりを強める取組みの拡充